広報
さめがわ

1971
11月号
No.216
編集兼発行
鮫川村総務課
塙町・佐藤印刷所



古いむかしは馬産地で聞こえた鮫川村。今は肉牛、乳牛の生産団地として有名になりました。

世界農林業センサスでは、肉牛の飼養戸数617戸、飼養頭数1,336頭。乳牛は196戸で603頭を飼養しているという数字が出ました。その後激動する農業情勢の中で、この数字はいくらか減少の傾向にありますが11月10日開かれた村の第24回畜産共進会は、例年に優る盛況で、さすがは「畜産の村鮫川」と、外来の来賓から賛嘆の声が聞かれました。

⊙毎月1日は交通事故ゼロの日です
⊙12月25日　クリスマス
⊙12月28日　官公庁ご用納め
⊙第3日曜日は『家庭の日』です

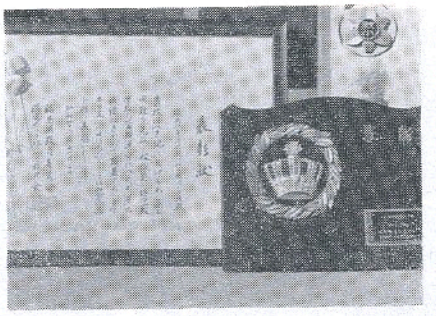
今月の人口

人口	6,500（＋1）
男	3,285（＋8）
女	3,215（－7）
世帯	1,199（0）

県教委が へき地優良校 として表彰

※※※小※※鮫※※※

鮫川小学校は、昭和三十九年度から、理科や数学等の特別研究校に指定され、優秀な成績をあげてきたが、このたび教職員が一致協力し、学校の管理運営につとめた功績を認められ、去る十一月三日の文化の日に県教育委員会とへき地教育振興会から表彰されました。



長い間ご苦労さまでした!!

このたび失対事業に働いていた7名の方が転職することになり、役場をおとずれて村長を囲み記念撮影……この日村から就職仕度金として1人5万円づつ貸付になりました。



お話の広み (7)

新段階に入る阿武隈山系調査

村長 石田卯子八

阿武隈山系を開発せよというのろしは鮫川村からあげたのであるが、これが世論の波にのり、阿武隈山地全域の三四市町村から成る開発促進協議会が結成され、県及び県議会の超党的運動に発展しました。

県はこの地域の農業振興に関する仕事を専門に担当させる「地域農業振興班」を発足させましたが、昭和四四年にこれを「調査室」に昇格させました。

続いて県と全地域市町村の一体となつた熱心な運動により、国の広域農業総合開発基本調査地区に指定され、根室、北上、阿蘇久住と共に、八溝山系を含めた広大な地域が開発調査の対象となつたのであります。

昭和四五年四月には国の機関である「阿武隈地域総合開発調査事務所」が福島市に設置され、県の調査室とともに鋭意調査が進められてきました。

この調査は、昭和四四年を第一年度として基礎的な調査が行われ第三年度の今年で一応終ることになつております。

第四年度の昭和四七年から二年間は、開発計画の策定が主なる調査の内容になる見込でありますから、これまで行われた基礎調査の上に、どのような開発がどのような方式で行われるべきかの計画策定に入るわけであります。

基礎調査の重要であることはいうまでもないが、肝腎なのは今後二年間に行われる計画策定であります。

現在の激動する農業情勢の中でこの重要な作業が行われることは極めて困難なことであり、且つ過誤の許されない重大なことであります。

この運動を初めた当初の考え方としては、農業の規模拡大—生産性向上—自立農家—大規模畜産団地—草地造成など数々の目標があつたわけですが、もちろん自立農家の育成強化が重要な柱であることに変りはないにしても、その可能限界は大きく制約される条件下にあることは否定できない事実であります。

地域の重心的な農業層がどのような類型を形成できるかが大切なところであります。

いま山系開発の発想を原点に立ちかえつて考えるべき新しい段階にきたことを感ずるのであります。

単なる農林業サイドの開発構想であつてはならず、広い視野に立ち、豊かな首都圏周縁農村の建設のためには、工鉱業、文教、福祉、生活境境、自然、休養機能などを含めた真に総合開発の実をあげ得る計画の策定を強調しなければならないことを主張したいのであります。



(昭和四四年鮫川村公民館にて)

おめでた

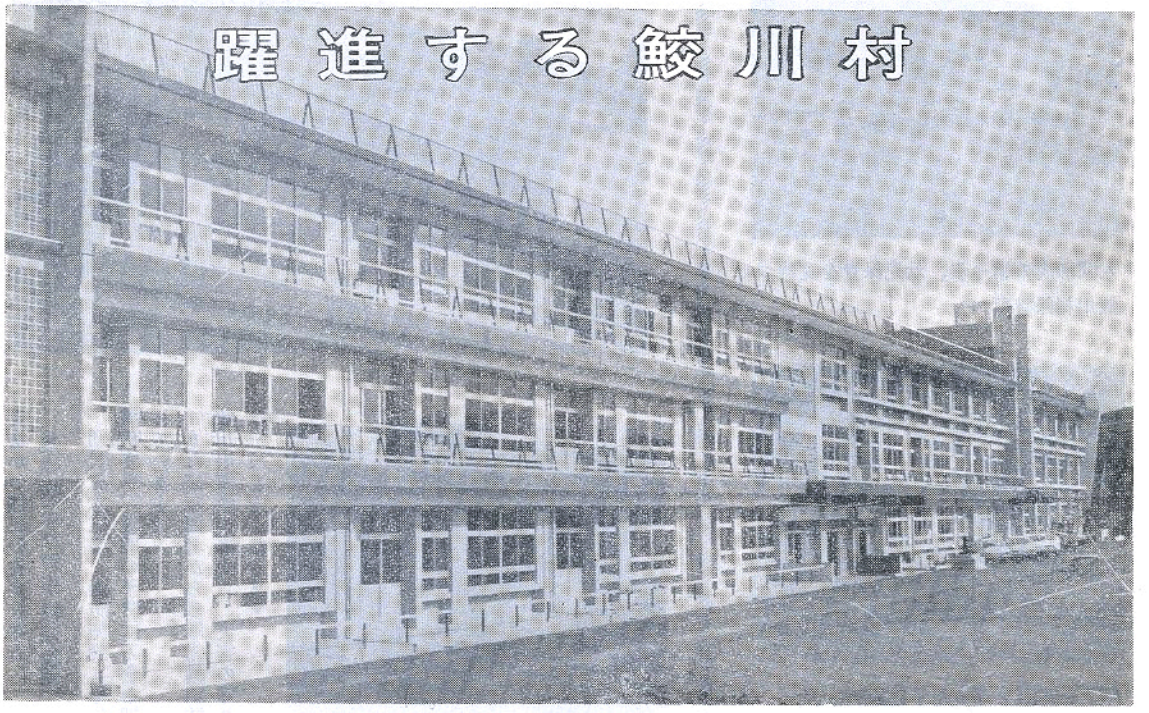
十月
真坂 湯坐 弥父和弥
越虫 芳賀義八郎 〃 五郎
田苗下 蛭田 珠 〃 守
青生野 生田目 繁 〃 勝利
彦次郎 青戸 健 〃 代吉
大塩 岡部久美子 〃 啓一
上 高坂 敏 〃 章

おくやみ

十月
折戸 阿久津サト 88才 世帯主芳郎
上野町 吉田 稔 53才 一郎

目でみる村勢

躍進する鮫川村



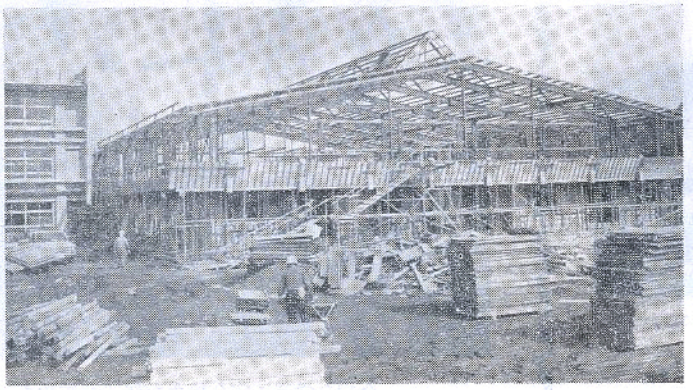
近代的な統合鮫川中学校　…鉄筋3階建・延べ3,470㎡…

環境に恵まれた、壇之岡の高台に総工事費1億4千余万円で県下一といってもよいような立派な校舎が完成しました。

教育施設の整備進む!!

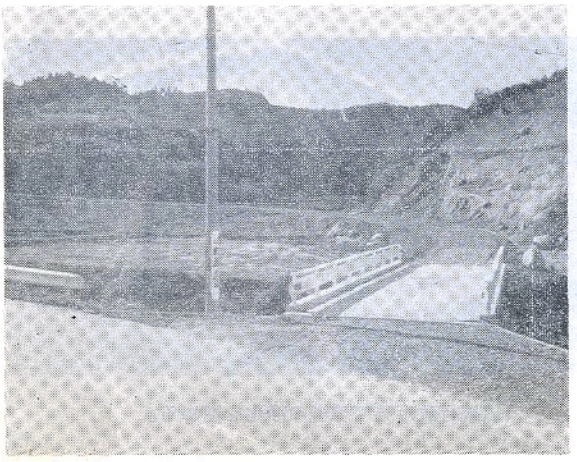
統合中校校舎の東側に延べ一、〇〇八㎡の面積を持つ、これまた県南一の大きな屋内運動場が十二月末までに完成する見込です。

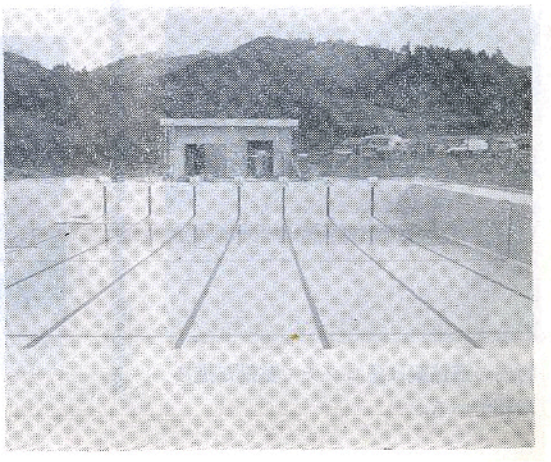
また待望の水泳プール（二十五m七コース）もでき、これで三ヶ年計画の統合中学校整備事業は完了することになりました。

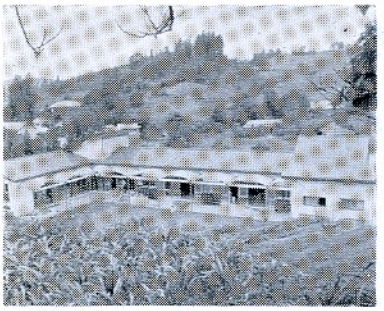


林道開設事業（写真左下）

壇之岡に通ずる林道が開設され去る11月15日開通式が行われました。これで鮫中生徒の通学にも大変便利になりました。



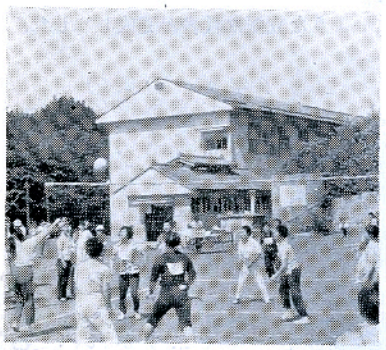




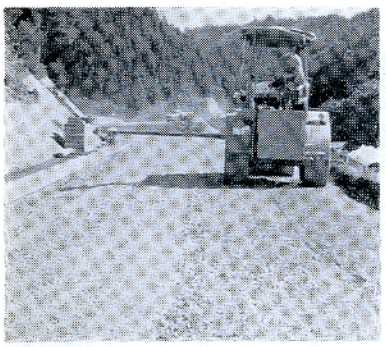
人間形成の第一歩、幼児保育を受持つ鮫川村保育所



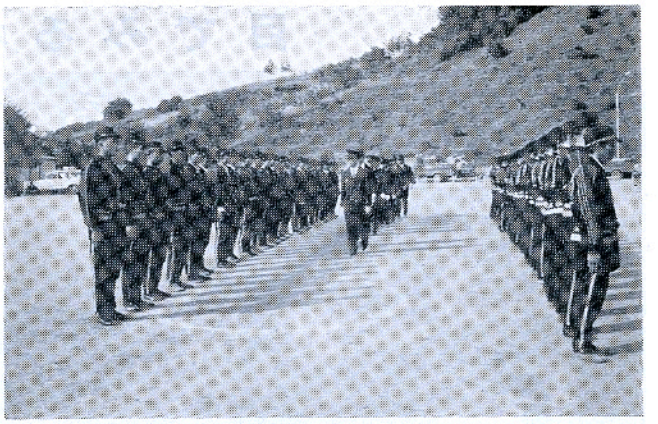
母子の健康を守る母子健康センター



体力作りの村となり、家庭バレーボールの熱戦展開



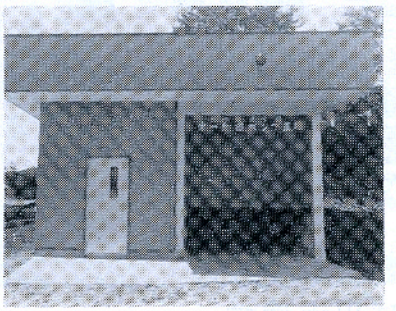
村内の道路網は急ピッチで整備が進められている。

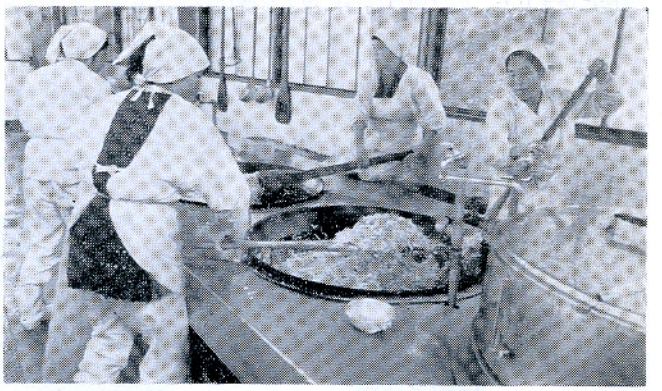


災害から住民の安全を守る 規律厳正な鮫川村消防団

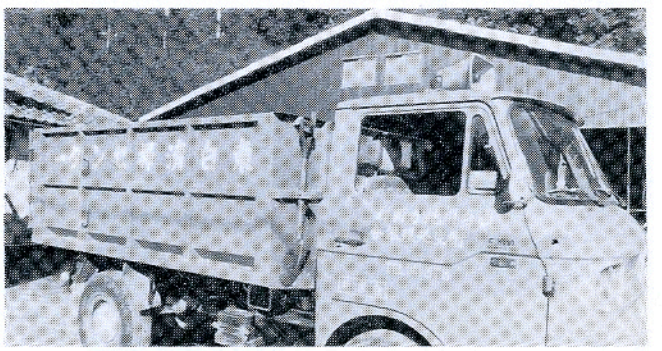
団員三六三名、消防施設も毎年整備され、災害の予防に万全を期しています。

また来年四月から広域常備消防鮫川出張所が誕生し、災害の守りは一段と固くなります。





全村の学童に完全給食を作る学校給食センター



広域行政事業で環境の浄化を進める。